

4 診療科の状況

(1) 医師名簿

(平成24年度)

課・係名	職名	氏名	備考
院長	院長	古川重治	
副院長	副院長	三枝伸二	
内科	内科部長	加藤吉保	
	人工透析科部長	大橋保	
	総合診療科部長	田中裕之	
	医務技師	川崎文	
消化器科	消化器科部長	隈元亮	
	医務技師	向井露子	
循環器科	循環器科部長	河野智紀	
	医長	大井正臣	
外科	消化器外科部長	宮蘭太志	
	外科部長	青木大	
	医務技師	大迫祐作	
	医長	恵浩一	
	医務技師	新田吉陽	
	医務技師	大久保啓史	
放射線科	放射線科部長	原田治	

4 (2) 内 科

内科は血液専門医の 加藤吉保 内科部長, 透析専門医の 大橋 保 人工透析科部長, 総合診療科の 田中裕之 部長, 総合診療科の 川崎 文 医師の4名で構成されています。

加藤医師は, 再生不良性貧血, 赤芽球癆, 骨髄異形成症候群, 急性骨髄性白血病, 慢性骨髄性白血病, 急性リンパ性白血病, 慢性リンパ性白血病, ホジキン病や非ホジキンリンパ腫のうちのB細胞リンパ腫, 成人T細胞白血病・リンパ腫などの悪性リンパ腫, 多発性骨髄腫, マクログロブリン血症, 特発性血小板減少性紫斑病など血液疾患を中心に診療しています。血液疾患の診断に欠かせない骨髄穿刺は平成20年度計69回, 平成21年度65回, 平成22年度54回, 平成23年度57回, 平成24年度32回施行しました。

24年度主な症例	総件数	新患数		
再生不良性貧血	5件	0件		
赤芽球癆 (PRCA)	3件	0件	ML&MDSへ移行	1例
骨髄異形成症候群	30件	5件	AMLへ移行	2例
急性骨髄性白血病	5件	0件	MDSから移行	2例
慢性骨髄性白血病	6件	1件		
急性リンパ性白血病	0件	0件		
慢性リンパ性白血病	3件	0件		
悪性リンパ腫				
B細胞びまん性リンパ腫	19件	2件	PRCAから移行	1例
B細胞濾胞性リンパ腫	5件	1件		
B細胞マントル細胞リンパ腫	3件	0件		
成人T細胞白血病・リンパ腫	11件	6件		
ホジキンリンパ腫	1件	0件		
他の血液疾患				
多発性骨髄腫	16件	4件		
マクログロブリン血症	3件	0件		
特発性血小板減少性紫斑病	23件	1件		

大橋医師は, 人工透析科部長として, ”血尿・たんぱく尿から腎不全まで” 腎臓内科一般の診断・治療を行っています。腎炎, ネフローゼ症候群, 糖尿病性腎症などの全身疾患に伴う腎疾患の診断・治療, 急性腎不全, 慢性腎不全症例の保存療法から透析導入, 循環器, 消化器, 外科などの種々の合併症のある透析患者の治療, 各種血液浄化療法の実施: 血液透析療法, 血液濾過透析, 腹膜透析療法, ECUM, 血漿交換療法, エンドトキシン吸着などを施行しています。

24年度実績

慢性維持透析導入患者数	12人
内シャント設置術	9件
内シャントPTA	6件

田中医師は呼吸器領域を中心に内科一般を診療しています。また緩和ケア部門も担当しています。その他、地域医療支援機構の代診医派遣業務を行っており、南さつま市笠沙の野間池診療所等に4日間の代診派遣を行いました。

呼吸器関連の検査では、気管支鏡検査8件行いました。

呼吸器関連の入院患者疾患分類は以下の通りです。

原発性肺癌	128件
閉塞性肺疾患（COPD、気管支喘息等）	18件
びまん性肺疾患（間質性肺炎等）	15件
呼吸器感染症（肺炎等）	74件（内、肺結核12件）

また、緩和ケア部門の担当として癌の末期の患者さんの受け入れも行いました。

癌末期の緩和ケア（消化器癌、卵巣癌、耳鼻科癌等）31件

川崎医師は田中診療科部長の元、内科一般から血液疾患の診療まで内科全般にわたって診療に従事しています。

4 (3) 消化器内科

平成 24 年度の消化器内科は常勤 2 人体制が維持され、隈元・向井から岩屋・中村へと新たな体制となった。一昨年・昨年同様、大学からの内視鏡検査の応援はなかったが、肝臓専門外来(小田先生)は引き続き来ていただき、肝疾患患者数も増加して時には夜まで診療頂いていた。

診療内容は前年を踏襲する形で行い、外来患者数・入院患者数は昨年度に比べて若干の減少が見られた。今後の患者増加を見込むには開業医の先生方からの継続的な紹介や入院日数の調整が必要と思われる。過疎化・高齢化の進む薩南地域ではいかにビジネスモデルを構築するかが今後の課題と考えられた。

内視鏡関連では診断から治療内視鏡への時代変遷の変革期であり、ニーズに耐えうる医師の質的・量的の向上、インフラ整備、スタッフ教育の必要性を感じた。

主な検査実績は(2012年4月～2013年3月)以下のとおりであった。

◆ 上部内視鏡検査	1,516 件
◆ 下部内視鏡検査	654 件
◆ ポリペクトミー(胃・大腸)	141 件
◆ EUS	46 件
◆ ERCP	94 件
◆ MDL	24 件
◆ カプセル内視鏡	2 件
◆ ESD	5 件

4 (4) 循環器科

平成 24 年度は、古川重治院長，大井正臣医長，私 河野の計 3 名で診療にあたり，循環器科を担当しました。

循環器科では主に心不全，心筋梗塞，狭心症，不整脈疾患，弁膜症疾患を中心に検査・治療を行っています。外来患者数は増加傾向にあり，検査としては心エコー検査を筆頭にホルター心電図，心筋シンチ，心臓カテーテル検査をコンスタントに施行できました。治療としては，人工ペースメーカーや，まだ件数は少ないものの経皮的冠動脈形成術を始めていくことができ，急性期患者への対応も充実してきています。

文責 循環器科部長 河野 智紀

循環器科実績

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
心不全	76	75	90	94	79	92
心筋梗塞	17	20	17	6	10	33
狭心症	-	-	-	-	53	139
心エコー(経胸壁)	1,924	2,080	2,311	2,282	2,253	2,321
経食道心エコー	2	12	18	10	11	12
Holter 心電図	239	273	353	250	240	222
心筋シンチ	240	273	265	246	233	264
冠動脈CT	6	1	1	-	-	-
心臓カテーテル	49	86	75	78	64	87
人工ペースメーカー	28	36	37	34	47	39
(新規)	22	21	20	22	28	24
(交換)	6	15	17	12	19	15
PCI			2	-	-	10

4 (5) 外 科

1. 外科の特徴

平成24年の外科は三枝医師（副院長）を筆頭に宮菌（消化器外科部長）、青木医師（外科部長）、と恵医師（～6月）、新田医師（7月～9月）、大久保医師（10月～12月）のメンバーで診療を行いました。また時折元院長である福元先生に手術指導をいただいています。

消化器外科を中心に乳腺手術・肺手術・甲状腺手術も手掛けており、鏡視下手術も腹部疾患を中心に積極的に導入しています。当科では、抗がん剤治療に関して中央施設に遅れることなく、最新の知見・プロトコルを南薩地域の癌患者に提供すべく、鹿児島大学消化器外科（旧第一外科）主催の臨床研究のみならず、大学病院も含めた九州の主たる癌治療施設が参加しているKSCC(Kyushu Study group of Clinical Cancer)による化学療法臨床治験にも積極的にエントリーしています。これにより、消化器外科領域においてはほぼ全国レベルの抗がん剤治療の提供が可能と自負しています。

今後も地域の病院・医院・介護サービスステーションとの地域医療連携をさらに強化し、医療サービスの維持に努力します。

（文責 消化器外科部長 宮菌太志）

2. 外科の実績（平成24年度）

◆手術件数：全身麻酔・・・212件、腰麻+局所麻酔・・・30件

◆全麻+腰麻症例

疾患名	件数（鏡視下手術）	疾患名	件数（鏡視下手術）
◇ 食道・胃疾患		◇ 胆道系疾患	
・胃癌	14 (5)	・胆管癌	1
・胃潰瘍	1	・胆のう癌	1 (1)
・食道癌	1	・胆石・胆のう炎	55 (48)
◇ 十二指腸・小腸疾患		・総胆管結石	1
・小腸腫瘍	1 (1)	◇ 乳腺疾患	
・イレウス	14 (3)	・乳癌	9
◇ 大腸・直腸疾患		◇ 肺疾患	
・結腸癌	16 (5)	・肺癌	7 (3)
・直腸癌	8 (1)	・気胸	2 (2)
・直腸腫瘍	1	◇ 虫垂炎	19 (19)
◇ 消化管穿孔	7	◇ ヘルニア	
◇ 腹腔内腫瘍	4	・鼠蹊部ヘルニア	42
◇ 甲状腺癌	2	・腹壁ヘルニア	4
◇ 肝疾患		◇ 肛門疾患	2
・肝癌	2	◇ 気管切開	3
◇ 脾疾患		◇ プロローベ	10
・脾癌	1		

4 (6) 放射線科

1. 放射線科の特徴

平成 24 年度の放射線科も常勤は原田の 1 人体制で 6 年目に入りました。主たる業務は CT や RI の検査レポートの作成です。細々とでは有りますがへパトーマに対する血管造影と動注療法も行っております。放射線治療につきましてはこれまでと同様毎週月曜日に鹿児島大学放射線科より、放射線治療専門医の中村文彦先生が応援に来て下さり、治療計画や治療中の患者さんの診察さらには院内外の先生方からの放射線治療に関するご質問やご相談にも応じて頂いております。

電カルやレポートシステムも 2 年目に入りレポート作成にも慣れ文明の利器を謳歌してはみるものの、放射線科の先輩方にご指導いただいた「レポートとは手紙を認めるつもりで作rinaさい」との教えからは離れていくようで手放して享受できない状態に苦しんでおります。ただ、今さら手書きのレポートを出す非常識を働く勇氣(蛮勇?)はなく何よりも変換キーの副作用たる漢字忘れは数知れず、このまま流れに抗うことなくコピー&ペーストの日々が続きそうです。

文責 放射線科部長 原田 治

2. 放射線科の実績 (平成 24 年度)

◆ CT	2,449 件
◆ RI	131 件
◆ 血管造影	18 件
◆ 放射線治療	32 件



24 年度 医局スタッフ